植生史研究関連文献リスト１９８７年

千野裕道．建築遺構出土の炭化木材の性格について．「比較考古学試論」（増田精一編），239-256．雄山閣出版，東京．

群馬県大泉町御正作遺跡の主に古墳時代の竪穴住居跡と，東大阪市若江北遺跡の弥生時代の掘立柱建築物跡での炭化した建築材の樹種構成と産状の詳細な検討．

千野裕道．第１・７・12地点の植物遺体（自然木・炭化材・葉）．「館町遺跡Ⅲ」，397-404，図版9～15．八王子市．

約３万年前と，縄文時代中期前後から出土した，自然木24点，炭化材４点の樹種と，葉７試料の同定．

中馬教允・出口一盛・佐藤美穂子・宮田寿美子・大塚克也．雄国カルデラ内扇状地堆積物の^{14}C年代－日本の第四紀層の^{14}C年代(162)－．地球科学，41(1)：69-70．

＞34550yBP(GaK-12772)の年代値を得た泥炭質粘土中のハリギリの材（小沢勝治同定）．

中馬教允・千葉茂樹．福島県大谷川河谷中の段丘堆積物の^{14}C年代－日本の第四紀層の^{14}C年代(167)－．地球科学，41(5)：293-294．

26810±1520yBP(GaK-12771)の年代値を得た灰色粘土層中のトウヒ属の材（小沢勝治同定）と，ヒメバラモミ・トウヒの球果，シラベの鱗片，チョウセンゴヨウの種子（鈴木敬治同定）．

江川宜伸・中川原捷洋．竜ヶ崎屋代Ｂ遺跡第34号住居跡より出土した炭化米の同定について．「茨県教育財団文化財調査報告第40集」，273-276．茨城県教育財団．

弥生時代後期前葉頃の住居跡から産出した炭化米．計測結果から，やや小粒種に属する水稲うるち種で，日本型稲であると推定している．

遠藤邦彦・小杉正人・鈴木　茂・菱田　量．草加市周辺の縄文海進期後の沖積層層序と古環境．日本大学文理学部自然科学研究所「研究紀要」，No.22：47-56．

毛無堀付近の古毛無沼の堆積物の花粉分析．森林と沼沢地の変化が読み取れる．堆積物は下位でヒシの実を多く含む（吉川純子同定）．

Fuji, N. Researches in the Far East on the study of the Holocene during the Inter-Congress Time, 1983-1987(I). Bulletin of the Faculty of Education, Kanazawa University, Natural Sciences, No.36:7-20.

1983～1987年の間の日本の完新世研究を紹介．完新世／更新世の境界．完新世の植生・気候変動．後氷期の堆積史．

Fuji, N. Researches in the Far East on the study of the Holocene during the Inter-Congress Time, 1983-1987(II). Bulletin of the Faculty of Education, Kanazawa University, Natural Sciences, No.36:21-34.

1983～1987年の間の日本の完新世研究を紹介．富山湾の沈水林．遺跡の古環境復原．完新世の海水準変動．

藤　則雄．考古花粉学．251pp．雄山閣出版．東京．

基礎編では花粉分析に必要な知識を概観．応用編では古植生，古気候の復原，遺跡での応用例を著者の研究を中心に紹介する．

藤　則雄．新潟県縄文時代寺地硬玉遺跡の古環境解析．金沢大学日本海域研究所報告，No.19：1-22．

1点の花粉分析．温量指数による解析，現植生との比較，既存の研究結果との比較で議論を展開．

藤下典之．土師遺跡から出土したヒョウタン仲間の遺体．「堺市文化財調査報告第36集」，73-77．堺市教育委員会．

堺市の中世の遺跡から産出した小粒のヒョウタン仲間種子，および球形またはギボシ型と推定される果皮片．

藤原　宏志．富沢遺跡におけるプラント・オパール分析．「仙台市文化財調査報告書第98集－富沢－富沢遺跡第15次発掘調査報告書」，375-382．仙台市教育委員会．

仙台平野の弥生時代の低湿地遺跡での遺構からイネのほか，キビ族（ヒエの可能性大）のプラント・オパール産出．ヒエ田の可能性も示唆．

藤原　宏志．長野Ａ遺跡におけるプラント・オパール分析．「北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書第54集－長野Ａ遺跡２（Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ区）の調査」，297-299．財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室．

小倉南区の古墳時代の水田遺構からイネのプラント・オパールが多産．

藤原宏志．兵庫：小路大町遺跡におけるプラント・オパール分析．「兵庫県埋蔵文化財調査報告書第45冊－小路大町遺跡発掘調査報告書」，49-52．兵庫県教育委員会．

神戸市東灘区の古墳時代以降の遺跡におけるプラント・オパールによる水田探査．

Hase, Y. Descriptive note on the fossil leaves of the Theaceae from the Late Cenozoic sediments in southern Kyushu, Japan. Mem. Fac. Gen. Ed., Kumamoto Univ., Nat. Sci., No.22: 17-26.

南九州の８地点から産出するツバキ科化石をまとめている．４種の新種，*Stewartia nansatsuana*（後期中新世），*Schima tanaii*, *Camellia palaeosasanqua*, *Camellia nangoi*（以上３種鮮新世）と *Ternstroemia maekawai*（鮮新世）の形態の記載あり．いずれも葉化石．

長谷義隆．南部九州上部新生界の層序．「九州後期新生代火山活動」地団研専報，No.33：251-278．

層序の説明の中で大型植物化石の産出報告を列挙している．

長谷義隆・山本正継・長峰　智・野村真二．鹿児島県八重山地域の火山層序．「九州後期新生代火山活動」地団研専報，No.33：189-206．

層序の説明の中で植物化石の産出報告を列挙している．

長谷義隆・山脇真二・早坂康隆．鹿児島湾北西岸地域の第四系層序の再検討．「九州後期新生代火山活動」地団研専報，No.33：207-224．

加治木層下部（前期更新世）と国分層（中期更新世）の大型植物化石のリストあり．ブナが多産している．

畑中健一．長野Ａ遺跡の花粉分析．「北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書第54集－長野Ａ遺跡２（Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ区）の調査」，300-302．財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室．

古墳時代の水田跡が見つかった遺跡での花粉分析．低湿地の開拓と森林破壊を示す．

畑中健一．勝円遺跡C地点花粉分析（概報）．「北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書第57集－畠山跡－」．83–84．財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室．

縄文時代晩期から奈良時代の試料．シイノキ属とアカガシ亜属が優占し，ヤマモモ属を伴う．安定した照葉樹林の存在を示唆．

畑中健一・野井英明．井上薬師堂遺跡の花粉分析．「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－10－小郡市所在井上薬師堂遺跡の調査」，115-118．福岡県教育委員会．

奈良時代８世紀前半を中心とする．弥生中期から中世の複合遺跡．二次林の拡大．雑草類の産出．ソバの産出がみられる．

服部　保・中西　哲・武田義明．近畿地方における照葉樹林主要構成種の地理的分布．とくに後氷期の分布拡大について．日生態会誌．37(1)：1-10．

現在の照葉樹林主要構成種の分布と花粉分析の結果をもとに．分布拡大のルートを議論．

林　弘也．出土木製遺物の樹種．「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告－10－小郡市所在井上薬師堂遺跡の調査」，119–121．図版98～106．福岡県教育委員会．

奈良時代８世紀前半を中心とする遺跡．建築部材や櫛．田下駄などの樹種．スギが多い．

林　弘也・松本　勗．四箇遺跡から出土した木製遺物について．「福岡市早良区四箇遺跡－福岡県埋蔵文化財調査報告書第172集」，179–182．pls.20～23．福岡市教育委員会．

弥生時代から古墳時代と考えられる木製品．農具はアカガシ亜属が多く．クスノキが１点ある．他の建築部材はアカガシ亜属．クリ．シイノキ属など．

林　昭三・島地　謙．畑ノ前遺跡5H井戸１およびその周辺から発掘された木質遺物の樹種．「京都府（仮称）精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書－煤谷川窯址・畑ノ前遺跡－」，190-198．古代学協会．

奈良時代の木製井戸の構成材はヒノキとスギで．外径１m以上のヒノキの大木を利用していた．自然木の落枝はほとんどが広葉樹．記載と図版あり．

林　昭三・島地　謙．長野Ａ遺跡出土の木器などの樹種．「北九州市埋蔵文化財発掘調査報告書第54集－長野Ａ遺跡２（Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ区）の調査」，303-308．pls.1～6．財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室．

古墳時代後期から鎌倉時代の木質遺物49点の同定．記載・図版あり．

星川清親・庄司駒男．富沢遺跡より発掘された植物遺体の種の鑑定報告．「仙台市文化財調査報告書第98集－富沢－富沢遺跡第15次発掘調査報告書」，413–430．仙台市教育委員会．

仙台市の低湿地遺跡の弥生時代．平安時代．中世などの大型植物遺体．現地取り上げと水洗篩分け．多数の写真を示している．

星野フサ・松澤逸巳．マンモスゾウ生育時の古環境－特に最終氷期最寒冷期について－．「松井　愈教授記念論文集」，79-89．

21810±150yBP（Gak-8745）の放射性炭素年代がでている襟裳岬のマンモスゾウ産出層準の花粉分析．

胆振団体研究会．クッタラ火山の火砕堆積物の^{14}C年代と２つの層準の化石林．地球科学．41(3)：188-193．

5万年前頃の軽石流堆積物Kt-b，降下軽石堆積物Kt-iに埋積された化石林の年代と樹種．Kt-bに埋積されたものは「登別化石林」と呼ばれている．Kt-iに覆われた化石林の樹種はモミ属とトウヒ属．

Igarashi, Y. Pollen incidence and wind transport in central Hokkaido (II).Research Bulletins of the College Experiment Forests, 44(2):477-506.

1977から1982年までの6年間，10日（3-10月）また30日（11-2月）おきに林内の地上0.2，10，17，24mの高さでの花粉量の変動を調べた結果．

五十嵐八枝子．苫小牧演習林地域における植生の変遷．北海道大学農学部演習林研究報告，44(2):405-427.

立地の異なる10地点での火山砕屑物に挟在する腐食層の花粉分析．過去4500年間の植生変遷を火山活動と関連づけて議論．

石田　仁・中堀謙二．愛知県作手村大野原湿原の花粉分析－過去二万数千年間の花粉群集変遷－．「35回日林中支論」，135-138.

鬼界アカホヤ，U-Oki，姶良Tn火山灰を挟む泥炭層の花粉分析．

伊東隆夫・山口和穂・林　昭三・布谷知夫・島地　謙．日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途．木材研究・資料（京都大学木材研究所），No.23：42-210.

自然科学的手法による出土木材の樹種同定に関する文献リスト（1985年度までに印刷公表された日本国内の遺跡に関するもの）から作成したデータ集．

岩内明子・長谷義隆．中・北部九州後期新生代の植生と古環境－その3 玖珠盆地南部（下部・中部更新統）－．地質学雑誌，93(7)：469-489.

下部更新統の宝泉寺層（新称）と中部更新統の野上層の層序と花粉化石・大型植物化石の検討．植生の変化と気候の変化・地形の変化について議論．

日本先史・原史時代の人々の地形認識と土地利用研究グループ．先史・原史時代奈良盆地の自然環境－その2 コアの記載と生物資料－．古文化財教育研究報告，No.16：23-74.

天理市朝和地域の5000年前以降のボーリング資料の花粉分析（小島夏彦）とプラント・オパール分析（藤原宏志）．

角野康郎．日本産ヒシ属の変異に関する予察的研究．植物分類地理，38：199-210.

Miki(1952)の化石の研究に言及．

金原正明．芝遺跡第2次発掘調査地区の花粉分析・植物遺体による環境復元．「桜井市芝・芝遺跡大三輪中学校改築にともなう発掘調査報告書」，41-47．桜井市教育委員会．

縄文時代晩期の花粉分析．照葉樹林に冷温帯性の樹種が混在．針葉樹も分布する．他に木材4点，種子1点の同定．

金原正明．前栽遺跡周辺の古環境と栽培植物．「前栽遺跡（第2次）．天理市埋蔵文化財調査報告第3集」，5-11，図版1．天理市教育委員会．

最終氷期（18530±590yBP）．縄文時代晩期，古墳時代，平安時代の花粉分析と大型植物遺体．

笠原安夫．福岡県四箇遺跡の種子分析について．「福岡市早良区四箇遺跡－福岡県埋蔵文化財調査報告書第172集」，189-201．福岡市教育委員会．

縄文後・晩期を中心とする小種実．縄文晩期から炭化イネ籾殻と，多数の焼畑雑草が産出したので，陸

稲の焼畑栽培を想定.

笠原安夫. 鳥浜貝塚（第7次発掘）における種子集中層から出土種実の同定－アサ, クマヤナギ, ヒルムシロ類, その他－. 「鳥浜貝塚, 1985年度研究の成果－縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査6－」, 1-10. 福井県教育委員会・福井県立若狭歴史民俗資料館.

縄文時代前期末の泥炭層の大型植物遺体. 水洗分析の結果, ヒルムシロ類が多産, その他クマヤナギ, イヌザンショウ, エゴノキ, ミクリ類, ハンノキなどが産出.

笠原安夫・藤沢　浅. 福岡遺跡（縄文後期後半～晩期）の出土種子について. 「石川県石川郡河内村, 福岡遺跡」, 83, 図版29. 河内村教育委員会.

土坑からアブラナ類の炭化種子が約900粒産出.

古環境研究所. プラント・オパール分析結果報告－上郷町, 南条棚田遺跡－. 「南条棚田遺跡Ⅱ」16-21. 長野県下伊那郡上郷町産業課・長野県下伊那郡上郷町教育委員会.

弥生時代後期の水田跡のイネのプラント・オパール.

古環境研究所. プラント・オパール分析調査報告. 「馬口遺跡Ⅱ」, 32-35. 更埴市教育委員会・更埴市遺跡調査会.

長野県の平安時代の遺構での稲作の, プラント・オパール分析による確認.

粉川昭平. 田原本町の植物化石. 「田原本町史. 本文編」, 983-990. 田原本町.

田原本町の沖積面下に分布する最終氷期泥炭層と, 植物化石についての総説.

近藤　務・五十嵐八枝子. 北海道馬追丘陵北部のボーリング孔にみられる第四系. 「松井　愈教授記念論文集」, 95-103.

露頭, ボーリング試料のテフラと花粉化石群集から, UM－Ⅲ～Ⅴ層は, 厚真地域の中部更新統, 早来層に対比される.

京都大学北部構内BF31区調査班. 北白川追分町遺跡の発掘調査. 「京都大学構内遺跡調査研究年報昭和59年度」, 9-56, 図版1～13.

縄文時代後・晩期の大型植物遺体（南木睦彦）, 木材遺体（島地　謙・林　昭三・伊東隆夫）. 大型植物遺体の産出表とＳＥＭによる写真. 木材遺体の記載と図版あり.

前田保夫. 小堤西池の池底堆積物の花粉分析. 「国指定天然記念物小堤西池カキツバタ群落調査報告書Ⅱ」, 11-17. 刈谷市教育委員会.

K-Ah火山灰層準より上位の池沼堆積物の花粉分析. 現在にいたるまで池沼的環境下にあり, 周辺には照葉樹林が広く繁茂していた.

前田保夫・松下まり子. 花粉化石の調査－花粉分析からみた川崎低地における完新世の森林変遷史（概報）－. 「川崎市内沖積層の総合研究」（松島義章編）, 89-95.

植生は落葉広葉林（10000～8500年前）, 針葉・広葉混交林（8500～5000年前）, 常緑・落葉広葉林（5000～3000年前）と変遷した.

松田　功・前田保夫. ラウス湖畔の湿原堆積物からみた植生変遷. 知床博物館研究報告, No.8：29-35.

約2500～3000年前以降の花粉分析.

松本　豪. 若干の遺跡から出土した大麦について. 考古学ジャーナル, No.279：32-34.

5地点の10世紀から16世紀の大麦化石．桿の長短．皮裸性などを論じている．

松下まり子．晩氷期以降の植生史－照葉樹林の出現と拡大－．群落研究．No.4：15-20.

花粉分析から明らかになった滋賀県曽根沼での6000年前，室戸岬室津川での8000年前の落葉樹林と照葉樹林の成立を例にあげ，議論を展開．

松下まり子．志知川沖田南遺跡・水田遺構の花粉分析．「兵庫県文化財調査報告書第40冊．淡路・志知川沖田南遺跡」，165-184．兵庫県教育委員会．

弥生時代後期～古墳時代前期の水田遺構面での花粉の空間的分布を，シルト以下の粒子の重量比，灼熱減量分と比較．水田遺構の形態を論ずる．また，短期間での立地の変化を花粉の層位的変化から検討する．

松下まり子・前田保夫．完新世における淡路島南部の植生変遷．「中西哲博士追悼植物生態・分類論文集」，473-479．神戸群落生態研究会．

論鶴羽山地の北西部に広がる三原平野と山地の南方海上に位置する沼島のボーリング試料の花粉分析結果の比較．沼島で6000年以降シイが多いのは気候的要因と地史的要因による．

Matsutani, A. Identification of Japanese millet from the Gangetsu Site by means of a scanning electron microscope. J. Anthrop. Soc. Nippon, 95(2): 187-193.

ヒエ，アワ，キビの炭化粒のＳＥＭでの内穎，外穎の細胞形態の差を示し，宮城県の平安時代の住居址からの穀粒をヒエと同定している．

松谷暁子．富沢遺跡出土葉茎状炭化物の識別．「仙台市文化財調査報告書第98集－富沢－富沢遺跡第15次発掘調査報告書」，383-396．仙台市教育委員会．

仙台平野の弥生時代の低湿地からの，ヨシの茎の走査電子顕微鏡像．

松谷暁子．六反田遺跡出土物の灰像．「六反田遺跡発掘調査報告書．仙台市文化財調査報告書第102集」，397-399．仙台市教育委員会．

集落跡からのイネの籾殻や稲藁に相当する灰像．

松谷暁子．槇の内遺跡出土の炭化物．「千葉県野田市槇の内遺跡発掘調査報告書」（下津谷達男・金山喜昭編），224-227，図版1～2．野田市教育委員会．

縄文時代前期の黒浜期の住居址からのクルミ核炭化物，シイまたはクリとオニグルミの小材片．

南木睦彦．最終氷期の植物化石とその進化上の意義．遺伝．Vol.41，No.12：30-35.

最終氷期のトウヒ属，カラマツ属の化石球果の形態の変異．

南木睦彦．北江古田遺跡の大型植物遺体．「北江古田遺跡発掘調査報告書（２）」，466-504．中野区・北江古田遺跡調査会．

東京軽石(TP)前後以降の堆積物の検討．Miki(1938)，直良(1954)，Naora(1958)の江古田からの大型植物遺体との比較．形態記載，図版あり．

南木睦彦・吉川純子．東京都中里遺跡の縄文時代以降の大型植物遺体．「中里遺跡２－遺跡と古環境－．東北新幹線建設に伴う発掘調査」，101-183．東北新幹線中里遺跡調査会．

産出したほとんどすべての種類の記載と図版あり．

南木睦彦・吉川純子・矢野祐子．川口市赤山陣屋跡遺跡の大型植物遺体．「赤山＊古環境編」，131-202．川

口市遺跡調査会.

縄文時代以降の大型植物化石群集の変遷. 遺跡内での平面分布の検討あり.

光谷拓実. わが国における年輪年代学の確立とその応用（第1報）現生木のヒノキによる年輪変動パターンの特性検討. 木材学会誌. 33(3)：165-174.

同一円盤内の異なった方向の年輪パターンの類似度は高い. 中央部の年輪には個体的特徴がでやすい. 同一採取地の異個体間の年輪パターンの相関も高い.

光谷拓実. わが国における年輪年代学の確立とその応用（第2報）山地を異にするヒノキ相互間およびヒノキと異樹種間との年輪変動パターンの相関分析. 木材学会誌. 33(3)：175-181.

長野県・岐阜県・三重県・和歌山県のヒノキは相関関係がある. ヒノキとサワラ・コウヤマキ・アスナロの年輪パターンには相関がある.

宮地直道. 日本の埋没林研究に向けて. 植生史研究. No.2：3-12.

埋没林の形成過程を具体例をあげて説明. 埋没林研究の意義を力説.

Miyoshi, N. & Uchiyama, T. Modern and fossil pollen morphology of the genus *Fagus* (Fagaceae) in Japan. Bulletin of the Hiruzen Research Institute, Okayama Univ. of Sci. No.13: 1-6.

現生のブナ, イヌブナと宮城県飯野川産の完新世のブナ属花粉化石の形態. 現生のブナ, イヌブナと化石のブナ属のSEM像による図版あり.

水野清秀. 四国及び淡路島の中央構造線沿いに分布する鮮新・更新統について（予報）. 地質調査所月報. 38(4)：171-190.

伊予市南西の群中層, 徳島県吉野川中流北岸の土柱層, 淡路島南端の灘層から産出した主要大型植物化石の表（百原　新同定）. 既報の大型植物化石の報告も集積.

百原新・南木睦彦・粉川昭平. 西八木層の大型植物化石群集. 国立歴史民俗博物館研究報告. 13：116-124, 図版40～42.

兵庫県明石市, 「明石人」発見地点の付近の中位段丘層の調査. 報告例が少ないトウヒ属の球果, オヒョウモモ近似種の核, ヒトツバタゴの核の記載. 写真図版あり.

守田益宗. 東北地方における亜高山帯の植生史についてⅢ. 八甲田山. 日生態会誌. 37(2)：107-117.

25ヶ所の泥炭地の花粉分析を行い, 既存の結果を含め考察. 8500～7500年前頃は1000m以高で草原的な景観. それ以下はミヤマナラ・ダケカンバ優占. 3000年前頃からアオモリトドマツ次第に拡大. 1500年前以降に急速拡大し亜高山針葉樹林帯を形成. 7000年前に1000m以下はブナ優占.

守田益宗. 富沢遺跡の花粉分析的研究. 「仙台市文化財調査報告書第98集－富沢－富沢遺跡第15次発掘調査報告書」, 439-460. 仙台市教育委員会.

約5000年前以降の花粉分析. 古墳時代中期までは樹木花粉組成は, コナラ属が優占, ブナ属がこれにつぎ, クマシデ属, ニレ属－ケヤキ属も比較的多い. 稲作は弥生時代中期以降.

妙正寺川No.1遺跡調査会. 妙正寺川No.1遺跡－多目的遊水地事業に伴う緊急発掘調査報告書－. 124pp., 23図版. 妙正寺川No.1遺跡調査会.

パリノ・サーヴェイ株式会社による. 東京都武蔵野台地にある低湿地遺跡の立川期以降の古環境変遷. 花粉, 木材, 種子, 珪藻, 植物珪酸体を検討し, 多数の図版を示している.

中堀謙二．花粉分析資料からみた中部関東地方の植生変遷の特徴－特にブナ属とコナラ属の関係に着目して－．「35回日林中支論」，143-146.

1万年前以降の花粉分析の資料を解析すると，針葉樹が後退するとブナ属がナラ類に代わって勢力を増す．

中堀謙二．菅　誠．乾湿度の季節変化による中部・関東地方の気候区分の試みとその植生との対応について－クラスター分析法による気候分類－．「昭和61年度特定研究．中部山地における森林の適正な管理と利用に関する研究」，3-16．信州大学農学部・森林科学研究会．

ブナ属とコナラ属の勢力関係の地史的変遷の地域差と，気候区の対応．

那須孝悌・樽野博幸．東大阪市神並遺跡周辺の地層．「神並遺跡II」，102-105，図版115～117．東大阪市教育委員会，財団法人東大阪市文化財協会．

大阪層群上部と思われる層，上町層に相当する思われる層．沖積層下部の大型植物遺体と花粉化石群集および沖積層下部の自然木．木材は記載と図版あり．

那須孝悌・日浦　勇・樽野博幸・宮武頼夫．自然史関係の遺物．「鬼虎川遺跡第12次発掘調査報告」，52-55．東大阪市文化財協会・東大阪市教育委員会．

弥生時代の動物遺体，昆虫遺体，大型植物遺体（現地採集）．リストのみ．ナラガシワが多い．

楡井　尊．麻生環境センター内における完新統の花粉化石について．「仮称麻生環境センター内古環境調査報告書－麻生沖積層及び上総層形成期の古環境について－」，58-67．川崎市．

13試料の分析．

楡井　尊・柴崎達雄．鶴ヶ島町におけるボーリング試料の花粉分析．鶴ヶ島研究（鶴ヶ島町史編さん室），No.4：4-10.

2地点の完新世ボーリング試料の花粉分析．

野井英明．宮崎県野尻－高岡地域に分布する中部更新統の層序と花粉分析．地質学雑誌，93(12)：897-907.

0.51～0.3Ma前後の四家層，野尻層の花粉分析．植生変化は温帯性落葉広葉樹林→常緑広葉樹林→温帯性落葉広葉樹林．1サイクルの気候変化を推定し，南九州，大分と対比する．

野井英明．大分市大野川河口付近の地下第四系の層序と花粉分析－特に異常に厚い沖積層の形成について－．「九州後期新生代火山活動」地団研専報，No.33：161-169.

地下地質層序は下位よりON-IからON-V層の5層に区分される．花粉分析結果からON-I層は大分層群鶴崎層高城互層に対比される．ON-II層以上では最終氷期以降の花粉帯が識別される．

野井英明．宇木汲田遺跡の花粉分析．九州大学文学部九州文化史研究所紀要，No.32：59-72.

縄文晩期以降の花粉分析．花粉・胞子化石の産出しない層準の堆積物の検討をしている．

Noshiro, S. & Suzuki, M. Fossil root- and stemwood of *Chionanthus retusus* Lindl. et Paxt. from the Late Pleistocene of Akashi, Japan. IAWA Bulletin n.s., 8(2):125-133.

兵庫県明石市の後期更新世西八木層から産出したヒトツバタゴの根材と幹材の記載．現生のヒトツバタゴとの比較およびヒトツバタゴ属化石との比較．

能城修一・鈴木三男．木材遺体群集から何が分かるか．植生史研究，No.2：13-25.

植生史を読みとっていく上での，木材化石研究の現状と問題点を実例をあげて解説．

能城修一・鈴木三男．中里遺跡出土木材遺体の樹種と木材遺体から推定される古環境．「中里遺跡２－遺跡と古環境－，東北新幹線建設に伴う発掘調査」，253-320．東北新幹線中里遺跡調査会．

縄文時代後・晩期，古墳時代，奈良～平安時代の木材遺体．縄文時代のものは埋没林の分布図が描かれている．記載および図版あり．

能城修一・鈴木三男．川口市赤山陣屋跡遺跡から出土した木材遺体群集．「赤山＊古環境編」，203-280．川口市遺跡調査会．

縄文時代の木材化石群集．遺跡内での平面分布の検討あり．

Noshiro, S., Minaki, M., Suzuki, M. & Uematsu, H. Middle Pleistocene forests buried in the Kyoraishi Gravel, Yamanashi Prefecture, central Japan. Jour. Phytogeogr. & Taxon., 35(2):137-150.

中期更新世の教来石礫層中の泥炭層にともなって見いだされた数層の埋没林の，立木とそれ以外の木材，大型植物化石の組成から，ヒメバラモミ，エゾマツ，イラモミ近似種などのトウヒ属が優占する林が復原された．

大越昌子．中里遺跡のプラント・オパール．「中里遺跡２－遺跡と古環境－，東北新幹線建設に伴う発掘調査」，77-100．東北新幹線中里遺跡調査会．

縄文前期から近代の堆積物のプラント・オパール分析．図版あり．

岡田文男．入江内湖遺跡出土木製品の樹種の調査結果について．「入江内湖遺跡発掘調査報告書－米原町立米原小学校新設に伴う発掘調査－米原町埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」，18-20，図版35～36．

木製品80点の同定．記載あり．

大西郁夫．中国地方の第四紀後期植物・花粉群－その２．鳥取県日南町下花口の含チョウセンマツ泥炭層と鍵掛峠の砂まじり泥層－．島根大学地質学研究報告，No.6：55-60．

下花口の22030±1240yBP(GaK-9014)の年代の出ている泥炭層産出の大型植物化石と花粉化石およびその上位の泥層の花粉化石と，鍵掛峠付近の三井野原礫層中の泥層の花粉化石．

大西郁夫・渡辺正巳．西川津遺跡（1983）の花粉分析．「朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ」，252-261．島根県土木部河川課・島根県教育委員会．

縄文時代末から弥生時代の花粉分析．花粉組成から宍道湖湖底の試料と対比している．

大西郁夫・渡辺正巳．タテチョウ遺跡（1985）の花粉分析．「朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅱ」，219-223．島根県土木部河川課・島根県教育委員会．

松江市の低湿地遺跡の完新世末期の花粉分析．同じ遺跡の以前の花粉分析結果などと比較し，花粉層位を論じている．

大西郁夫・渡辺正巳．松江市西川津町，タテチョウ遺跡の花粉分析．山陰地域研究（自然環境），No.3：109-120．

朝酌川流域の７遺跡の花粉分析結果をまとめ，縄文時代後半以降の植生史をまとめている．

大西郁夫・赤木三郎・三好　環．鳥取県産含チョウセンマツ泥炭層の^{14}Ｃ年代－日本の第四紀層の^{14}Ｃ年代(166)－．地球科学，41(4)：251-252．

22030±1240yBP(GaK-9014)の年代の出ている泥炭層産出の大型植物化石と花粉化石．

尾上　亨・尾崎正紀・吉田史郎．知多半島東海層群からの植物化石．地質調査所月報，37：201-204，pls.1～

2.

中新世末から鮮新世初頭の葉化石の群集．三木（1948）が近辺から報告した種実を中心とする群集とは組成が異なるが，暖帯種や水湿地の種類が多い点では類似する．

大井信夫・辻　誠一郎．北江古田遺跡の後期更新世以降の花粉学．「北江古田遺跡発掘調査報告書（２）」，434-465．中野区・北江古田遺跡調査会．

東京軽石(TP)前後以降の堆積物の検討．産出花粉の計数表．形態記載．図版あり．

大迫靖雄．下山西遺跡25号住居址出土木炭について．「下山西遺跡．熊本県文化財調査報告第88集」，345-353．熊本県教育委員会．

木炭61点はクヌギ・コナラが多数．ケヤキ・散孔材が少数．出土木炭の位置から埋没状況やその後の攪乱について考察する．図版あり．

大澤　進．麻生環境センター建築工事に伴い産出した完新統の大型植物遺体について．「仮称麻生環境センター内古環境調査報告書－麻生沖積層及び上総層形成期の古環境について－」，52-57．川崎市．

産出した植物化石のリストあり．

Ozaki, K. *Tetracentron* leaves from the Neogene of Japan. Tranc. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., No.146: 77-87.

日本の新第三系の*Tetracentron*葉化石について検討している．岐阜県の上部鮮新統と考えられている阿多岐層からも新たに*T.* sp.の葉化石を報告し記載している．

パリノ・サーヴェイ株式会社．自然科学的分析．「栃木県埋蔵文化財調査報告第85集－宇都宮競馬場附属総合きゅう舎建設地内遺跡－後新田遺跡．富士前遺跡．ヤッチャラ遺跡．下り遺跡」，174-202,図版59～80．栃木県教育委員会．

最終氷期最寒冷期？および完新世の花粉分析．土器胎土などのプラント・オパール．古墳時代後期の炭化材（コナラ属コナラ亜属クヌギ節など）と炭化種実（モモ．オニグルミ）．多数写真あり．

パリノ・サーヴェイ株式会社．花粉分析．珪藻分析．「久宝寺南（その２）－久宝寺・加美遺跡の調査－近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書－本文編－」，560-573．財団法人大阪文化財センター．

河内平野．縄文晩～弥生中期．大和川の氾濫堆積物．堆積環境の違いを考慮．

パリノ・サーヴェイ株式会社．花粉分析．珪藻分析．「新家（その１）近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」，1-29．付表3．付図1．財団法人大阪文化財センター．

弥生時代中期以前～現在．花粉分析結果から植生復原と古気候の推定．

パリノ・サーヴェイ株式会社．畑ノ前遺跡試料花粉分析報告．「京都府（仮称）精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書－煤谷川窯址・畑ノ前遺跡－」，185-189．古代学協会．

奈良時代．周濠．井戸内堆積物分析による古植生復原．

パリノ・サーヴェイ株式会社．谷田部町境松遺跡出土試料花粉分析報告について．「茨城県教育財団文化財調査報告第41集－主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書－境松遺跡」，369-373．pls.39～40．

縄文時代中期住居跡床面などの試料．いずれも花粉の保存が悪く．分解が進み．分析に不適当な試料．

パリノ・サーヴェイ株式会社．花粉分析．「江戸川区上小岩遺跡．東京都埋蔵文化財調査報告書第14集」．69-88．東京都教育委員会．

おおよそ，2000～1500年以降と考えられる時期の花粉分析．アカウキクサ属など写真あり．

パリノ・サーヴェイ株式会社．花粉分析．「関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財調査報告書第15集－後田遺跡（旧石器編）」．335-358．pls.1～4．群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団．

約10000年前とごく最近の堆積物の，断片的な分析．

パリノ・サーヴェイ株式会社．花粉分析．「関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第16集．下東西遺跡．本文編」．943-944．「同．図版編」．341．群馬県教育委員会．

群馬県北部月夜野町の遺跡の更新世から中世にわたる様々な時代の試料であるが，いずれも花粉の保存が悪い．

パリノ・サーヴェイ株式会社．樹種同定．「下東西遺跡－関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第16集．本文編」．945-947．「同．図版編」．342-349．群馬県教育委員会．

群馬県北部月夜野町にある遺跡の室町時代後半の曲物．近世以降の井戸桶部材の同定．記載あり．どちらもスギとヒノキ属類似種が多い．井戸の用材の他遺跡との比較あり．

パリノ・サーヴェイ株式会社．石坂遺跡第２号竪穴住居跡出土試料分析報告．「いわき市埋蔵文化財査報告第17冊」．150-152．図版42～43．建設省東北地方建設局磐城国道工事事務所・福島県いわき市教育委員会．

平安時代?の住居跡から産出した炭化材．クリ．ユズリハ属．コナラ属コナラ亜属コナラ節．

パリノ・サーヴェイ株式会社．堪忍沢遺跡出土炭化材同定．「西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－堪忍沢遺跡」．56．図版16．秋田県教育委員会．

平安中期の炉内の炭化材．サンショウ２点．ヤマウルシ２点．

パリノ・サーヴェイ株式会社．町田市教育委員会．高ヶ坂南遺跡試料．炭化材同定．「高ヶ坂南遺跡－縄文時代中期集落址の調査－」．257-258．

住居址内からクリ４点．集石土坑からクヌギ３点．

パリノ・サーヴェイ株式会社．微化石分析．「東京都新宿区百人町三丁目遺跡－西戸山タワーホウムズ建設に伴う発掘調査報告書」．43-51．pls.19～20．百人町三丁目遺跡調査会．

江戸時代（18世紀後半～19世紀初頭）の土坑の．花粉．炭化木材．炭化種実．花粉はスギ属多く．木材はスギ．ヒノキ属など．種実はクリとオニグルミ．

パリノ・サーヴェイ株式会社．自然科学分析の結果．「百人町三丁目遺跡－西戸山住宅新築工事に伴う発掘調査報告書」．45-52．西戸山住宅遺跡調査会．

テフラと近世の溝から産出した炭化材の検討．スギ．タケ亜科．クヌギ節．クリ．ヒサカキ．

Sakaguchi, Y. Japanese prehistoric culture flourished in forest-grassland mixed ares. Bulletin of the Department of Geography University of Tokyo, No.19:1-19.

千葉県野田北方の谷の最終氷期と完新世のボーリング試料の花粉分析．日本の先史文化は森林・草原混合地帯から発生し．それを「黒ボク土文化」と呼ぶ．

阪口　豊．黒ボク土文化．科学．57(6):352-361.

千葉県野田北方の五駄沼谷の最終氷期以降の花粉分析．灰の微粒子から野焼きを推定．黒ボク土地帯の植生と環境を復原し，先史時代の森林・草原混合地帯で展開された野焼を生業の手段とする「黒ボク土文化」を提唱する．人の営みと森林との関わり合いについても議論している．

佐瀬　隆・細野　衛・宇津川　徹・加藤定男・駒村正治．武蔵野台地成増における関東ローム層の植物珪酸体分析．第四紀研究，26(1)：1-11．

イネ科植物相の復原から，古気候の推定を試みる．

佐藤敏也．籾痕と焼米塊．「蓬田大館遺跡，早稲田大学文学部考古学研究室報告」（桜井清彦・菊地徹夫編），261-262．六興出版社．

擦文文化に伴うイネ．

佐藤敏也．生石２遺跡Ｃ区出土米粒．「生石２遺跡発掘調査報告書（３），山形県埋蔵文化財調査報告書第117集」，8-10．

東北の各地の弥生時代のイネとの比較あり．

佐藤敏也．調布市下石原遺跡第３地点から検出された穀類．「調布市下石原遺跡－調布市埋蔵文化財調査報告25－」，65-68．調布市教育委員会．

土師竪穴に伴出の炭化米．

佐藤敏也．八王子城跡御主殿出土の穀類．「八王子城跡Ｘ」，23-27．八王子市教育委員会．

天正18年６月23日焼失のコメ，アワ，コムギ，オオムギ，アズキ．

島地　謙．出土船材並びに杭材の樹種．「久宝寺南（その２）－久宝寺・加美遺跡の調査－近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書－本文編－」，577-579．財団法人大阪文化財センター．

スギ，ヒノキ，ヤマグワ，ツブラジイ．造船用にスギを選んだ．

島地　謙・林　昭三・伊東隆夫．鬼虎川遺跡より出土した根材．「鬼虎川遺跡第12次発掘調査報告書第4冊」，49-52，図版66～67．財団法人東大阪市文化財協会．

遺跡の溝肩に生育していた10本の根材を調査．環孔材の幼令根材の形態は放射孔材・散孔材の形態を示すことを指摘している．花粉分析結果から当時は照葉樹林帯だった遺跡からの自然木としては多少疑問のある組成である．

島地　謙・林　昭三・伊東隆夫．鬼虎川遺跡より出土した棺材．「鬼虎川遺跡第12次発掘調査報告書第４冊」，45-48，図版64～65．財団法人東大阪市文化財協会．

弥生時代中期の３つの棺の13試料を同定．ヒノキが10点と多いのが古墳時代と異なる．ケヤキ１点は関西で初めて．

島地　謙・林　昭三・植田弥生．鬼虎川の木質遺物．「鬼虎川遺跡第７次発掘調査報告書第４冊」，39-67．財団法人東大阪市文化財協会．

弥生前期～中期の木製品の樹種．記載・図版あり．鍬・鋤・柄はカシ類，刺突具はモミ，容器・高杯などはヤマグワ，櫓や鍔は二葉マツ，田下駄はクスノキ，楯はモミを使用．スギは使用していない．

嶋倉巳三郎．寺地遺跡出土材の樹種．「史跡寺地遺跡」，449-456．新潟県西頸城郡青梅町．

縄文時代後晩期の材と炭化材．記載と図版あり．

嶋倉巳三郎．花粉分析の疑問（その三）－花粉群集と古植生－．花粉，No.20: 25-28.

寿能泥炭地遺跡等を例に，花粉群集と出土材種の比較を行なった．この他，花粉群集と古植生に関する雑感を述べている．

相馬寛吉．野口英世記念館ボーリング試料の花粉分析．福島大学特定研究［猪苗代湖の自然］研究報告，No.4:53-55.

60.25ｍのボーリングの基底部および47ｍに挟在する姶良Tn火山灰前後の花粉組成表．

相馬寛吉・辻　誠一郎．植生．「日本第四紀地図」（日本第四紀学会編），80-86．東京大学出版会，東京．

下末吉期の下末吉ローム層の最下部と下部，立川期の姶良Tn火山灰直下を基準とし，それに対比される日本各地の大型植物化石と花粉化石の記録をまとめる．

杉田久志．亜高山帯針葉樹林の分布状態と積雪深および亜高山帯域の広さとの関係－上越山地を中心とする地域について－．日生態会誌，37(3)：175-181.

現在の針葉樹林の分布状態を植生史を考慮にいれて考察．温暖期における亜高山帯針葉樹林の残存状態が，山域の大きさと立地の多寡に左右され，残存林の拡大した山としなかった山に分化した．

杉山真二．遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，No.2：27-37.

プラント・オパール研究の現状と問題点を遺跡調査を例にあげながら解説．

杉山真二・藤原宏志．川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析．「赤山＊古環境編」，281-298．川口市遺跡調査会．

縄文時代以降のプラント・オパール群集．

杉山真二・松田隆二．プラント・オパール分析結果報告．「三国の鼻遺跡Ⅳ・津古脇田遺跡－小郡市文化財調査報告書第39集」，61-74．図版33．小郡市教育委員会．

各層位ごとにどの範囲に水田があったかを推定している．

鈴木敬治．三貫池遺跡の植物化石群．「福島県文化財調査報告書第179集．国道113号バイパス遺跡調査報告Ⅲ」，467-475.

福島県の最終氷期前半と考えられる堆積物（ただし放射性炭素年代では21420yBP）からのヒメバラモミ近似種，ツガ，多様な落葉広葉樹の産出．

鈴木三男・能城修一．関東平野の縄文時代の木材化石群集とそれが示す古植生の変遷．植物地理・分類研究，38: 260-274.

７つの遺跡の木材化石群集をもとにした植生復原．縄文時代は現在の二次林に似るがより種類相の豊富な落葉広葉樹林が推定される．低湿地には広範にヤチダモの優占する林があった．古墳時代には，関東平野南部では照葉樹林が成立したが，内陸部では依然として落葉広葉樹林だった．

鈴木三男・能城修一．西八木層出土木材の樹種．国立歴史民俗博物館研究報告，No.13：125-134，図版43～53.

兵庫県明石市，「明石人」発見地点の付近の中位段丘層の調査．1948年の「明石西郊含化石層研究特別委員会」発掘．亘理俊次同定．未発表のものの再同定も掲載．記載，図版あり．

鈴木三男・能城修一．鳥浜貝塚出土石斧柄の樹種．「鳥浜貝塚，1985年度研究の成果－縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査６－」，16-29．福井県教育委員会・福井県立若狭歴史民俗資料館．

石斧柄271点の樹種同定．嶋倉（1979,1981）の結果をあわせ集計する．樹種はユズリハ属が62％を占める．記載と図版あり．

鈴木三男・能城修一．北江古田遺跡の木材遺体群集．「北江古田遺跡発掘調査報告書（２）」，506-556．中野区・北江古田遺跡調査会．

東京軽石(TP)前後以降の堆積物中の自然木，加工木の記載．図版あり．

高原　光・竹岡政治．丹後半島乗原周辺における森林変遷－特にスギ林の変遷について－．日林誌，69(6)：215-220．

花粉分析による6000年以降の森林変遷史．丹後半島では完新世以降，低地から山地までスギを主要構成要素とする森林があった．

高橋利彦．富沢遺跡出土材同定．「仙台市文化財調査報告書第98集－富沢－富沢遺跡第１５次発掘調査報告書」，397-412．仙台市教育委員会．

弥生時代を主体とし，近世までの，木製品，杭，木片（自然木？）の同定．

高野繁昭．多摩丘陵東部および下末吉台地の中・上部更新統の層序．地質学雑誌，93(2)：121-139．

佐江戸層（新称）からのFagus microcarpaの殻斗・種子，オニグルミの堅果を主とする植物遺体の産出（大沢　進同定）．

Takeuchi, S. Pollen analysis of the Hanaizumi Formation Iwate Prefecture, northeast Japan. Saito Ho-on Kai Museum Research Bulletin, No.55:13-20.

岩手県花泉の後期更新世，花泉層とそれを覆う完新世堆積物の花粉分析．花泉層は姶良Tn火山灰を挟在する．

竹内貞子．三貫池遺跡の花粉分析．「福島県文化財調査報告書第179集,国道113号バイパス遺跡調査報告Ⅲ」，476-480．

福島県の最終氷期前半と考えられる堆積物（ただし放射性炭素年代では21420yBP）からの，マツ属・トウヒ属・スギ属・ハンノキ属が優占しツガ属・モミ属がこれにつぐ群集．

竹内貞子・鈴木敬治．磐越西線上戸駅におけるボーリング試料の花粉分析．福島大学特定研究［猪苗代湖の自然］研究報告，No.4：87-90．

最終氷期以降の50ｍのボーリング試料．花粉ダイアグラムあり．

辻　誠一郎．最終間氷期以降の植生史と変化様式－将来予測に向けて－．「百年・千年・万年後の日本の自然と人類，第四紀研究にもとづく将来予測」（日本第四紀学会編），157-183．古今書院，東京．

関東地方の氷期・間氷期変動を通じての植生と環境のサイクリックな変動のモデルの呈示と，遺跡調査から明らかになった人間の植生干渉史．

辻　誠一郎．西八木層の花粉化石群集．国立歴史民俗博物館研究報告，No.13：135-142．

兵庫県明石市，「明石人」発見地点の付近の中位段丘層の調査．産出花粉の計数表あり．

辻　誠一郎・橋屋光孝．東京都中里遺跡の縄文時代以降の花粉学．「中里遺跡２－遺跡と古環境－，東北新幹線建設に伴う発掘調査」，185-251．東北新幹線中里遺跡調査会．

花粉の計数表，花粉形態の記載と図版あり．

辻　誠一郎・橋屋光孝・鈴木　茂．川口市赤山陣屋跡遺跡の花粉化石群集．「赤山＊古環境編」，105-130．川

口市遺跡調査会.

縄文時代以降の花粉化石群集の変遷.

辻　誠一郎・南木睦彦・能城修一・鈴木三男・吉川純子・橋屋光孝. 東京都中里遺跡の縄文時代以降の古植生. 「中里遺跡２－遺跡と古環境－. 東北新幹線建設に伴う発掘調査」, 321-325. 東北新幹線中里遺跡調査会.

大型植物遺体. 花粉. 木材の結果に基づく. 古環境・古植生の復原.

辻　誠一郎・小杉正人・遠藤邦彦・宮地直道・南木睦彦・能城修一. 川口市赤山陣屋跡遺跡をとりまく古環境. 「赤山＊古環境編」, 299-307. 川口市遺跡調査会.

珪藻化石. 花粉化石. 大型植物化石. 木材化石. 植物珪酸体化石. および堆積物の検討に基づき. 縄文時代以降の遺跡周辺の古環境変遷を. 総合的に考察している.

塚田松雄. 第四紀後期の植生史. 「日本植生誌８巻東北」（宮脇昭編）, 93-126. 至文堂. 東京.

最終氷期以降の東北地方の植生変遷史. 日本列島における過去２万年間のブナ属. スギの分布拡大論を含む.

馬追団体研究会. 石狩低地帯東縁部の更新統層序と古地理の変遷. 地球科学. 41(6)：303-319.

由仁安平低地に分布する第四系の層序. 安平層の花粉分析による古気候の変遷の復原. 各地の地層の対比・時代論. 馬追丘陵周辺の古地理の変遷.

内田律雄. 植物遺体. 「朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ」, 264. 図版136. 島根県土木部河川課・島根県教育委員会.

縄文時代のオニグルミ. カシ. トチノキ. カヤ.

上野実郎. 静岡県焼津市小川城遺跡水田遺構の花粉分析. 「焼津市埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－道場田・小川城遺跡Ⅲ. 宮之腰遺跡Ⅱ. 道下遺跡」, 141-144. 焼津市歴史民俗資料館.

水田遺構の花粉分析.

宇都宮　宏. 岡山遺跡出土の植物遺体. 「山口県埋蔵文化財調査報告第99集」, 101-107. 図版59～62. 山口県埋蔵文化財センター.

山口県熊毛町の弥生時代の住居跡. 土坑. 環濠の大型植物遺体. イネ. リョクトウ. エンドウ. クリ. モモ. シラカシ. アカガシ. ツブラジイ.

渡辺　誠. 縄文時代の植物質食料・ドングリ類. 考古学ジャーナル. No.279：24-27.

縄文時代のコナラ属堅果の産出例と. 民俗例の総説. 縄文時代草創期の鹿児島県東黒土遺跡の貯蔵穴から. 加熱アク抜きを必要とするナラ類が産出したことにふれている.

渡辺正巳. 西川津遺跡より出土した縄文早期末～前期初頭銛型木製品の樹種について. 「朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ」, 262-263. 図版135. 島根県土木部河川課・島根県教育委員会.

縄文早期末～前期初頭の銛型木製品の樹種はヒノキ（サワラの可能性も残る）である.

渡辺正巳・岩崎伸子. 安来市の空中花粉. 島根県地学会会誌. 第2号：27-31.

1985年5月から１年間の空中花粉を調査. スギやカバノキ属などで周辺地域の材積率との相違が見られる.

山田悟郎. 入江貝塚の遺物包含層から検出された花粉化石. 「噴火湾沿岸貝塚遺跡調査報告２. 高砂貝塚」.

167-173.

縄文時代後期の遺物包含層産出の花粉計数表．図版あり．

山田悟郎．K135遺跡から産出した花粉・胞子．「K135遺跡．札幌市文化財調査報告書」．583-594．図版148～150．札幌市教育委員会．

続縄文時代の古植生復原．クリ・オニグルミ・ドングリの堅果などの産出と栽培植物について議論．

山口浩司・高原　光・竹岡政治．比良山地における森林変遷（Ⅰ）－スギヤ池湿原の花粉分析－．京都府立大学農学部演習林報告．No.31：6-15.

4000年以降の植生変遷史．ブナを中心とする冷温帯落葉広葉樹林が，コナラ亜属の樹木を中心とした森林に移行した．図版あり．

山口誠治．久宝寺遺跡出土木製品の樹種鑑定について．「久宝寺北（その1～3）近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」．383-386．大阪文化財センター．

弥生時代から奈良時代までの木製品樹種．

山口誠治．久宝寺遺跡出土植物遺体の同定（特に種子同定について）．「久宝寺北（その1～3）近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書」．379-382．大阪文化財センター．

古墳時代前期の大型植物化石．スモモ，モモ，ヒョウタン仲間，ウリ仲間を含む．

Yamanaka, M. Palynological studies of Quaternary sediments in Northeast Japan VI. Ohnuma Moor in the Hachimantai Mountains. The Memoirs of the Faculty of Science of the Kochi University, ser.D(Biology), 8: 69-74.

秋田県八幡平の大沼の完新世堆積物の花粉分析．ブナ・コナラ属が優占するが，一時的にスギが漸増する時代がある．

山崎純男．北部九州における初期水田－開田地の選択と水田構造の検討－．九州文化史研究所紀要．第32号：127-186.

北部九州における初期水田の概要およびその問題点．自然科学的分析（花粉，プラント・オパール，種子分析）結果を，板付，野多目，菜畑遺跡を中心に述べている．

矢野牧夫．北海道の古植生．「北海道の植生」（伊藤浩司編著），283-331．北海道大学図書刊行会．

古植生の研究法を紹介．本州以南と北海道を対比させながら更新世以降の植生変遷を概観し，さらにアカエゾマツ，グイマツ，スギ，ブナなどの消長を例に現在の分布を議論する．

矢野牧夫．北海道の最終間氷期堆積物の植物遺体．「松井　愈教授記念論文集」．91-94.

渡島半島の大谷地層，黒松内低地の知来川層，十勝平野南部のピラオトリ層の植物化石から最終間氷期の温帯林の分布を議論する．

Yasuda, Y. Paleoenvironment of the Sombo Site in Fukui Prefecture, central Japan －a study of the climatic deterioration in the Kofun Era－. Sci. Rep., Memoirs of the Faculty of Integrated Arts and Sci., Hiroshima Univ., ser.IV, 12:11-38.

大島の表層花粉の調査をふまえて，福井県曽万布（ソンボ）遺跡の花粉化石群集を議論．

安田喜憲．最終氷期の寒冷気候について－南部ヨーロッパとの比較－．第四紀研究．25(4)：277-294.

最終氷期以降の時間層位帯としての花粉帯の再設定．

安田喜憲．森と海をめぐる歴史の胎動．「東京大学教養講座15．森と文化」．125-160．東京大学出版会．

日本の自然と人間の歴史を花粉分析を軸として．生態史観に立脚して語る．

安田喜憲．世界史の中の縄文文化．304pp．雄山閣出版．東京．

豊富な海外調査の経験を積み，ひるがえって縄文文化の意義を考えている．30歳代のデータを整理分析し，自らの学問体型の樹立を目指している．

八ヶ岳南麓遺跡学術調査団．山梨県高根町野添遺跡発掘調査報告書－縄文時代植物遺体の研究－．（市河三次編），43pp，27図版．

縄文時代中期の竪穴住居跡の炭化大型植物化石．炭化物の遺跡内での細かな分布状況を調べている．

Yonebayashi, C. Some pollen assemblages from a local alder forest formed on a small valley floor. Ecological Review, 21(2):117-127.

宮城県北西部のハンノキ林のボーリングサンプルの花粉分析．木本花粉の40％以上のハンノキ属花粉の産出はハンノキ林の存在をしめす．また，この地域のハンノキ林は1100年前以前の沖積堆積物上に成立し，1100年以降しだいに林床も豊かになってきた．

吉田　尚・吉井守正・片田正人・田中啓策・坂本　亨・佐藤博之．陸中大野地域の地質．地域地質研究報告（５万分の１地質図幅）．70pp．地質調査所．

岩手県北部大野村の第四系金ヶ沢層からのカワツルモとエゴノキの種子（粉川昭平同定）の産出．

吉井亮一・折谷隆志．立山天狗平における湿原堆積物についての花粉分析．植物地理・分類研究．35(2)：127-136．

植物の垂直分布と表層花粉の対応を検討．高山帯での低地からの飛来花粉による花粉組成の歪曲を考慮しながら，高山帯の植生史を編む．ハイマツの分布拡大は約7000年前．3000年～2600年にコメツガ・スギの分布が一時的に拡大する．

吉川周作・中川康一・川辺孝幸・古谷正和・大四雅弘．大阪市深層ボーリング．OD-2・OD-1コアの再検討．地質学雑誌．93(9)：653-665．

従来，基盤より神戸層群・下大阪層群・大阪層群・上部洪積層・沖積層と区分されていたOD-2コアの花粉分析を含む再検討．大阪層群が基盤を直接覆うことを明らかにした．

１９８５年補遺

大木靖衛・小鷹滋郎・杉山茂夫．箱根芦ノ湖の逆さ杉と南関東の巨大地震．神奈川県温泉地学研究報告．16(3)：65-74．

芦ノ湖の湖底林の樹種・分布・放射性炭素年代．放射性炭素年代の分布と巨大地震の関連を議論する．

大西郁夫．中海・宍道湖湖底およびその周辺地域の最上部完新統の花粉分析．島根大学地質学研究報告．No.4

：115-126.

米子市目久美遺跡での縄文時代前期～弥生時代中期と室町時代～現在．松江市川津遺跡の古墳時代前期～現在の花粉組成の変化．

山田悟郎．勝山館跡の古環境について．「上之国勝山館跡VI，昭和59年度発掘調査整備事業概報」，133-139，pls.54～55．北海道上之国町教育委員会．

花粉分析による古環境復原，栽培植物の検討．図版あり．

1986年補遺

粉川昭平．矢部遺跡出土の植物遺体について．「矢部遺跡－国道24号線橿原バイパス建設に伴う遺跡調査報告（II）－，奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第49冊」（奈良県立橿原考古学研究所編），271-272，写真10～11．奈良県教育委員会．

古墳時代前期初頭および中世の大型植物遺体．古墳時代前期初頭から，マクワウリ類，アサ，ダイズ？，アズキ？，コメ，モモ，ヒョウタン類，トウガン？などの栽培植物が産出．

粉川昭平．鷹野遺跡より出土した炭化物の種子について．「長崎県文化財調査報告書第85集，諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書III」，385-386．長崎県教育委員会．

縄文時代早期の炭化種実．ユリ科の球根らしいものが含まれる．

松井　章．ヒョウタンからコマ－ヒョウタン栽培植物説をめぐって－．考古学研究，33(1)：70-80．

ヒョウタンに関する考古学，植物学の研究者の記述をまとめ，問題点を指摘している．

松田隆嗣．矢部遺跡出土木製遺物の樹種について．「矢部遺跡－国道24号線橿原バイパス建設に伴う遺跡調査報告（II）－，奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第49冊」（奈良県立橿原考古学研究所編），275-279，写真12～14．奈良県教育委員会．

古墳時代前期初頭および中世の木製品および自然木樹種．ヒノキが多い．

松田隆嗣．鷹野遺跡より出土した炭化物の樹種について．「長崎県文化財調査報告書第85集，諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書III」，379-383．長崎県教育委員会．

約9000年前の集石内・炉内の炭化材．クヌギ，コナラ，カシ，ケヤキ，タイミンタチバナ．

大西郁夫．中海宍道湖湖底表層コアの花粉分析と環境変遷．山陰地域研究（自然環境），No.2：81-89．

中海２地点，宍道湖４地点のコアの花粉分析．各コアの花粉帯の対比と水生生物群集に基づく完新世の環境変化・時代推定の検討．

大西郁夫．中国地方の第四紀後期植物・花粉群－その１．島根県横田町小峠および下横田の後期更新世花粉フロラ－．島根大学地質学研究報告，No.5：1-9．

小峠の浮布軽石に覆われる亀ヶ市層とその上位の小峠層，および下横田の下横田層の花粉組成．

パリノ・サーヴェイ株式会社．石坂台Ⅳ遺跡．材同定．「東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅰ．石坂台Ⅳ遺跡・石坂台Ⅵ遺跡・石坂台Ⅶ遺跡・石坂台Ⅷ遺跡・石坂台Ⅸ遺跡・松木台Ⅲ遺跡．秋田県文化財調査報告書第101集」．575-578．秋田県教育委員会．

約1.8万年前のトネリコ属3点．記載・図版あり．

パリノ・サーヴェイ株式会社．長崎県鷹野遺跡試料花粉分析報告．「長崎県文化財調査報告書第85集．諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ」．371-376．長崎県教育委員会．

縄文時代などの花粉分析．

佐藤敏也・浅岡俊夫．有岡城跡主郭出土の炭化米．地域研究いたみ．No.16：84-95．伊丹市立博物館．

伊丹市中世末城跡出土の炭化米．短粒が主で．長粒を含まない．他にソバ．アワ．

島地　謙・林　昭三・福田さよ子．平井遺跡出土木質遺物の樹種同定．「堺市文化財調査報告第25集」．105-108．図版36～37．

中世の杭および補助材24点．総数28点の同定．記載あり．マツが多い．中・近世の多量の木質遺物の樹種同定の必要性を指摘している．

徳丸始朗．磯山城遺跡の花粉分析．「米原町埋蔵文化財調査報告書Ⅳ．磯山城遺跡－琵琶湖辺縄文早期～晩期遺跡の調査－」．217-222．米原町教育委員会．

時代不確定（縄文時代早期～７世紀）の花粉分析．他の試料からは花粉検出されず．

事　務　局　報　告

○第8回植生史研究会談話会と野外巡検の記録

日時：1989年8月25日（金）　13:00～15:00

会場：釧路公立大学

テーマ：『湿原の発達史をどのようにして読みとるか』

話題提供：１．山地における「閉鎖系」湿原の発達史と古環境　　叶内敦子（明治大学）

２．沖積平野の地形発達と湿原の形成　　海津正倫（名古屋大学）

この談話会は，日本生態学会シンポジウムの一つとして開催された。辻の趣旨説明に続いて２件の話題提供があった。叶内氏の話題は，矢の原湿原（福島県大沼郡昭和村），八島ヶ原湿原（長野県下諏訪村）など多数の山間の小凹地を埋める堆積物に関するものであった。放射性炭素年代とテフラを用いて堆積物の層序と年代を明らかにし，山地湿原の形成過程について検討した後，それぞれの堆積物の花粉分析結果が示された。堆積物の基底の年代は様々で，矢の原湿原のように８万年前頃にさかのぼるものもあれば，完新世半ば頃のものもあるが，最終氷期よりさかのぼるものは知られていない。堆積速度にも各湿原間で差があるだけでなく，それぞれの湿原内でも時期によって差がある。山地湿原としての共通性よりむしろ，多様性が強調された。

次の海津氏の話題では，まず沖積平野を５つのタイプに分け，どのタイプにどのような湿原（泥炭地）が形成されるかが述べられた。つづいて，約10000～9000年前頃と，3000～2000年前以降に泥炭地が特に顕著に発達することが述べられ，これが沖積平野の地形発達史においてどのような意味があるかが，豊富な具体例を